

8. F 事業体 Q 浄水場
 8.1 浄水場フロー図

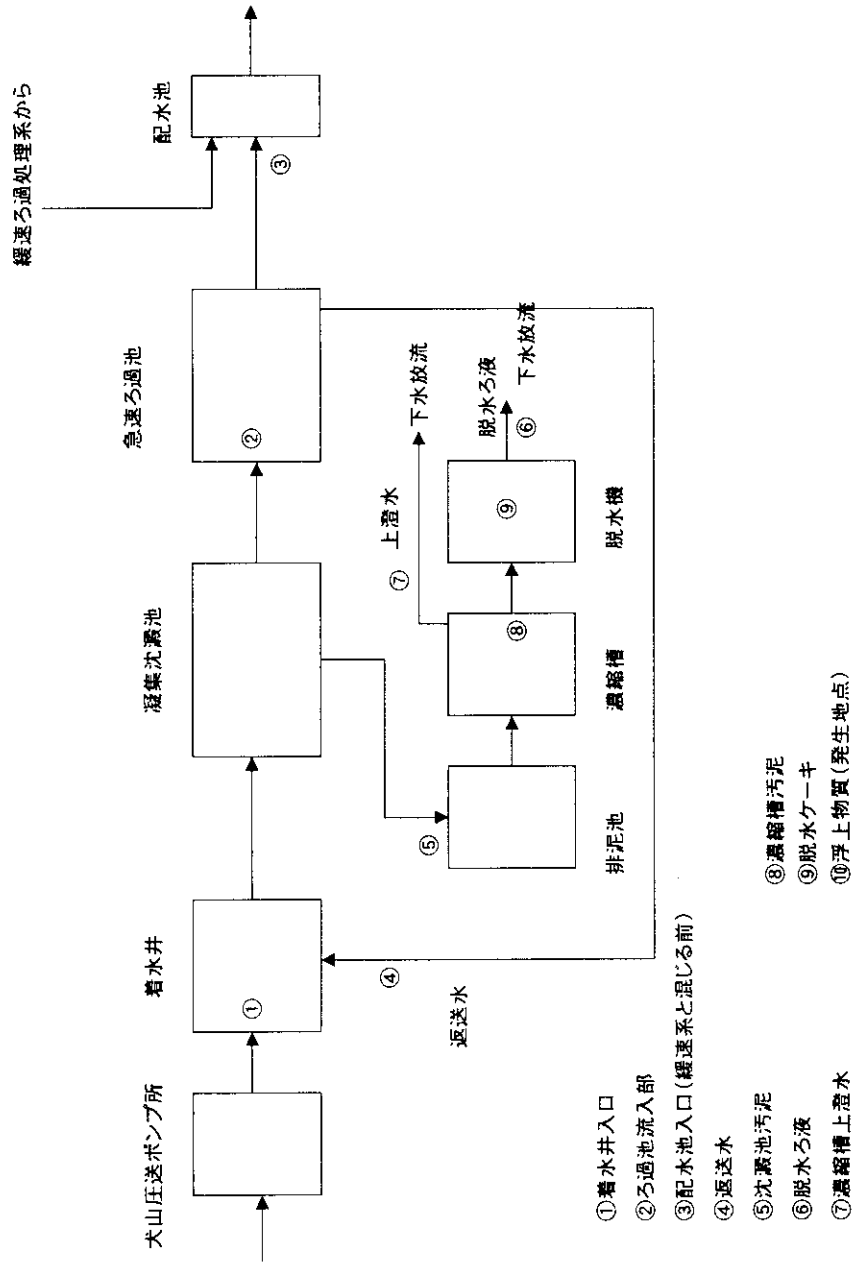


図 5F 事業体 Q 浄水場フロー図

8.2 一般項目測定結果

表 20 F 事業体 Q 浄水場一般項目調査結果(1 月度)

事業体名	F	浄水場名	Q
採取日	平成16年1月22日		

	前々日 (平成16年1月20日)	前日 (平成16年1月21日)	当日 (平成16年1月22日)
天候	晴れ	曇り	晴れ
降水量 (mm)	0.0	0.0	0.0
気温 (℃)	4.9	3.8	-0.2

	着水井	ろ過池	送水	返送水
水温 (℃)	4.4	4.7	4.3	4.4
pH値	7.15	6.93	6.95	7.2
色度 (度)	2	0	0	79
濁度 (度)	1.5	0.3	0.0	46
残留塩素 (mg/L)	—	1.00	0.70	—
KMnO ₄ 消費量 (mg/L)	3.7	1.4	1.4	31
塩素イオン (mg/L)	8.0	8.9	8.8	9.3
TOC (mg/L)	2.33	1.62	1.03	18.4

表 21 F 事業体 Q 浄水場一般項目調査結果(2 月度)

事業体名	F	浄水場名	Q
採取日	平成16年2月25日		

	前々日 (平成16年2月23日)	前日 (平成16年2月24日)	当日 (平成16年2月25日)
天候	晴れ	曇り	晴れ
降水量 (mm)	0	0	0
気温 (℃)	7.6	6.4	9.6

	着水井	ろ過池	送水	返送水
水温 (℃)	7.5	7.1	7.1	7.1
pH値	7.07	6.94	6.96	7.1
色度 (度)	10	0	0	34
濁度 (度)	16.0	1.0	0.0	25
残留塩素 (mg/L)	—	0.96	0.64	—
KMnO ₄ 消費量 (mg/L)	5.1	1.8	1.4	18.4
塩素イオン (mg/L)	7.5	5.7	5.9	7.4
TOC (mg/L)	1.97	1.10	0.81	9.99

表 22 F 事業体 Q 浄水場一般項目調査結果(3 月度)

事業体名	F	浄水場名	Q
採取日	平成16年3月18日		

	前々日 (平成16年3月16日)	前日 (平成16年3月17日)	当日 (平成16年3月18日)
天候	晴れ	曇り	雨
降水量 (mm)	0	0	0.5
気温 (℃)	12.0	16.0	10.4

	着水井	ろ過池	送水	返送水
水温 (℃)	8.1	8.2	8.1	8.1
pH値	7.03	6.95	6.97	7.1
色度 (度)	2	0	0	40
濁度 (度)	2.2	0.3	0.0	45
残留塩素 (mg/L)	—	0.98	0.73	—
KMnO ₄ 消費量 (mg/L)	4.5	1.5	1.8	38.0
塩素イオン (mg/L)	5.5	6.3	6.6	8.6
TOC (mg/L)	1.71	1.07	0.85	14.3

8.3 調査地点及び調査日

表 23 F 事業体 Q 浄水場採水地点及び調査日

調査地点		測定箇所	調査月		
			1月度	2月度	3月度
水質	着水井	着水井入口 (返送水が流入しない時間帯)	1月22日	2月25日	3月18日
	ろ過池	ろ過池流入部	1月22日	2月25日	3月18日
	送水	配水池入口 (緩速系と混じる前)	1月22日	2月25日	3月18日
	返送水	着水井流入前	1月22日	2月25日	3月18日
排水	脱水ろ液	脱水機出口	1月22日	2月25日	3月18日
	濃縮槽の上澄水	上澄水の下水放流管入口	1月22日	2月25日	3月18日
汚泥	沈澱池	沈澱池汚泥出口 (上澄水は捨てた状態で)	1月22日	2月25日	3月18日
	沈澱池	沈澱池汚泥出口 (上澄水は捨てない状態で)		2月25日	3月18日
	濃縮槽	濃縮槽汚泥 (上澄水を捨てた状態で)	1月22日	2月25日	3月18日
	脱水ケーキ	脱水機	1月22日	2月25日	3月18日
浮上物質		浮上物質(スカム)発生地点	1月20日	中止	3月18日

表 25 F 事業体 Q 浄水場 調査結果(2月度)

調査箇所	採取箇所	調査項目				
		フタル酸ジ-2-エチルヘキシル (μg/L)	フタル酸ジ-n-ブチル (μg/L)	SS (mg/L)	TOC (mg/L)	DOC (mg/L)
水質	着水井	0.09	<0.05	10	1.3	0.92
	ろ過池	0.05	0.09	1	0.72	0.61
	送水	0.05	0.08	<1	0.64	0.58
	返送水	1.2	0.07	72	5.6	1.0
排水	脱ろ液	0.77	0.16	20	18	17
	濃縮槽の上澄水	0.09	0.05	5	3.1	2.0

調査箇所	採取箇所	調査項目												
		フタル酸ジ-2-エチルヘキシル (μg/kg)	フタル酸ジ-n-ブチル (μg/kg)	SS (mg/L)	TOC (mg/L)	DOC (mg/L)	含水率 (%)	強熱減量 (%)	鉄 (mg/kg)	マンガン (mg/kg)	アルミニウム (mg/kg)	ヒ素 (mg/kg)	カルシウム (mg/kg)	マグネシウム (mg/kg)
汚泥	沈殿池	沈殿池汚泥出口(上澄水は捨てない状態で)	---	---	2000	230	1.7	---	---	---	---	---	---	---
		沈殿池汚泥出口(上澄水は捨てた状態で)	---	---	2600	250	2.1	99.7	---	---	---	---	---	
		濃縮槽汚泥(上澄水を捨てた状態で)	3900	230	27000	2600	26	96.7	35.9	16000	370	150000	87	2100
	脱水ケーキ	脱水機	5200	100	---	---	---	60.7	28.0	23000	790	130000	86	3000
		脱水機	6900	140	---	---	---	---	29.7	22000	820	140000	87	2900

フタル酸類、金属類は乾燥重量換算

図 7F 事業体 Q 浄水場 調査結果グラフ(2 月度)

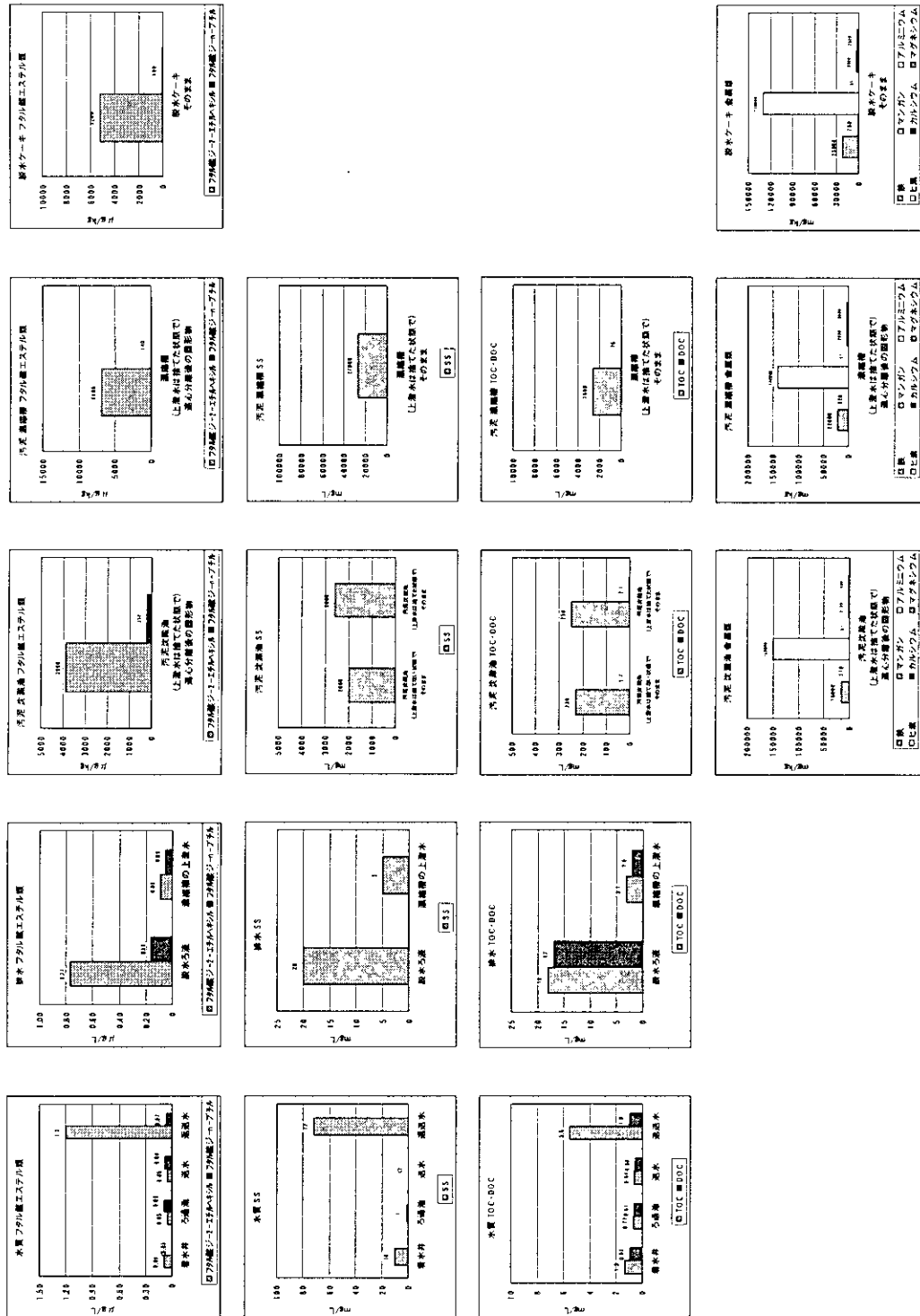


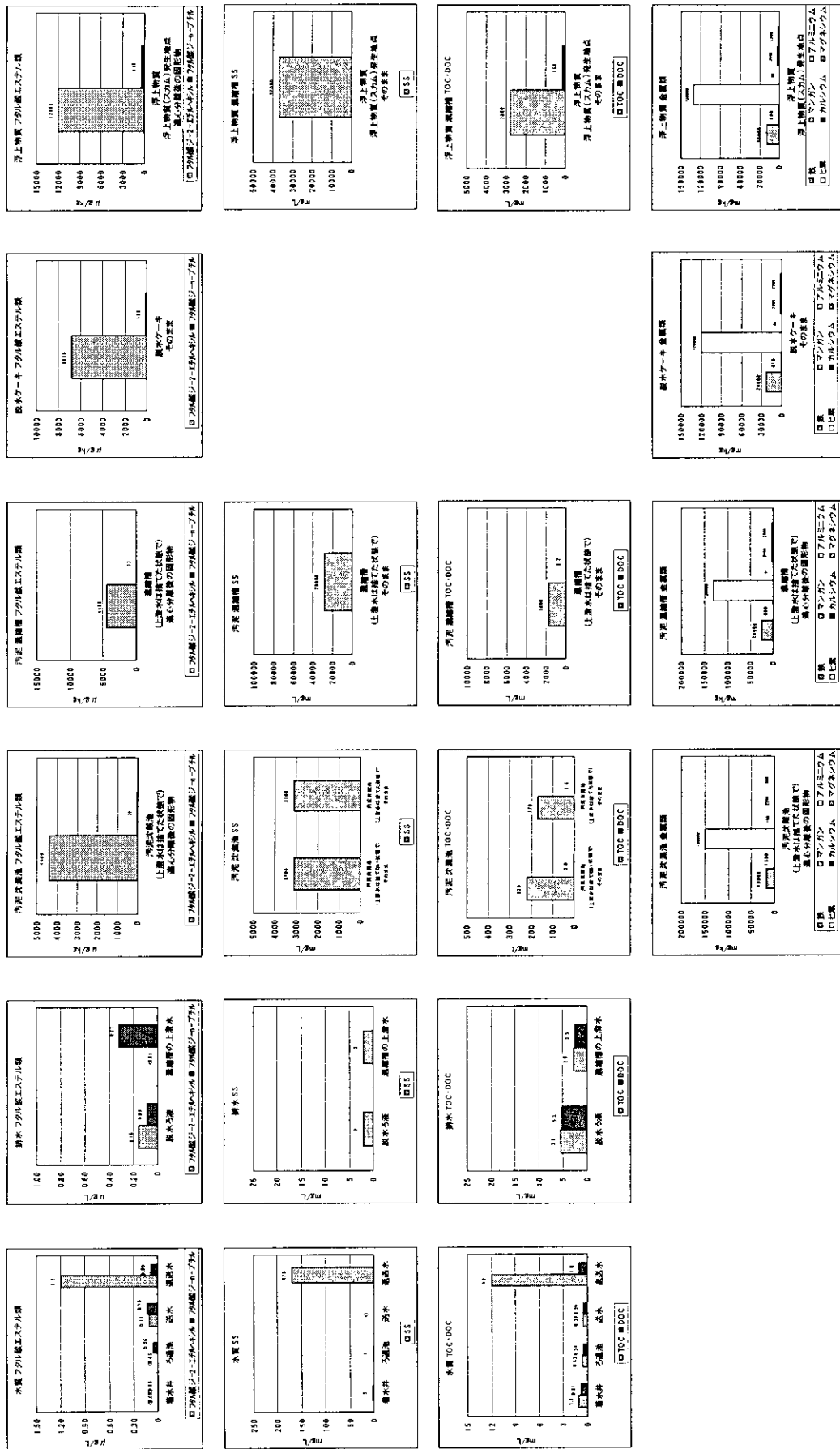
表 26 F 事業体 Q 浄水場 調査結果(3 月度)

調査箇所	採取箇所	調査項目				
		フタル酸ジ-2-エチルヘキシル (μg/L)	フタル酸ジ-n-ブチル (μg/L)	SS (mg/L)	TOC (mg/L)	DOC (mg/L)
水	着水井	<0.05	<0.05	3	1.1	0.81
	ろ過池	<0.05	0.06	1	0.63	0.54
	送水	0.11	0.13	<1	0.59	0.56
	返送水	1.2	0.09	170	12	1.0
排水	脱水ろ液	0.16	0.09	2	5.5	5.3
	濃縮槽の上澄水	<0.05	0.32	2	2.9	2.5

調査箇所	採取箇所	調査項目												
		フタル酸ジ-2-エチルヘキシル (μg/kg)	フタル酸ジ-n-ブチル (μg/kg)	SS (mg/L)	TOC (mg/L)	DOC (mg/L)	含水率 (%)	強熱減量 (%)	鉄 (mg/kg)	マンガン (mg/kg)	アルミニウム (mg/kg)	ヒ素 (mg/kg)	カルシウム (mg/kg)	マグネシウム (mg/kg)
汚泥	沈澱池汚泥出口(上澄水は捨てない状態で)	そのまま	---	---	3100	220	2.0	---	---	---	---	---	---	---
		遠心分離後の上澄水	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
	沈澱池汚泥出口(上澄水は捨てた状態で)	そのまま	---	---	3100	170	1.6	95.8	---	---	---	---	---	---
		遠心分離後の上澄水	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---
濃縮槽	濃縮槽汚泥(上澄水を捨てた状態で)	遠心分離後の固形物	4400	39	---	---	---	33.0	18000	1300	150000	100	2200	1800
		そのまま	---	---	29000	1800	8.2	92.9	---	---	---	---	---	---
脱水ケーキ	脱水機	遠心分離後の固形物	4400	33	---	---	---	27.1	24000	600	130000	91	2900	2800
		そのまま	6800	120	---	---	---	59.3	24000	610	120000	84	2800	2800
浮上物質	浮上物質(スクラム)発生地	---	---	37000	2800	150	90.5	---	---	---	---	---	---	
	遠心分離後の固形物	12000	410	---	---	---	---	33.4	20000	800	130000	68	3800	2300

フタル酸類、金属類は乾燥重量換算

図 8 F 事業体 Q 浄水場 調査結果グラフ(3 月度)



8.5 考察

8.5.1 1 月度調査

(1) 水質

フタル酸類の浄水処理過程の挙動を表 23に示した着水井入口(返送水が流入しない時間帯)から返送水(着水井流入前)までの 4 地点で調査を実施した。その結果を表 24および図 6に示す。

フタル酸ジ-2-エチルヘキシルの検出は 4 地点中 2 地点で、検出割合は 50%であり、その濃度は着水井入口(返送水が流入しない時間帯)で $0.06\mu\text{ g/L}$ 、返送水(着水井流入前)で $1.1\mu\text{ g/L}$ であった。

フタル酸ジ-n-ブチルは 4 地点すべてで検出しており、その内着水井入口(返送水が流入しない時間帯)で $0.17\mu\text{ g/L}$ と最も高濃度検出された。

フタル酸ジ-2-エチルヘキシルとフタル酸ジ-n-ブチルの両物質が検出された地点は着水井入口(返送水が流入しない時間帯)と返送水(着水井流入前)の 2 地点であった。

水質調査において SS 分が多いとフタル酸エステル類も多くなる傾向が認められ、フタル酸類は固形物中に吸着されると思われる。また、鍋屋上野浄水場の水質の特徴としてフタル酸ジ-n-ブチルの検出率が高いことがあげられる。

(2) 排水

脱水ろ液(脱水機出口)および濃縮槽の上澄水(上澄水の下水放流管入口)のフタル酸エステル類の調査結果を表 24および図 6に示す。

フタル酸ジ-2-エチルヘキシルは脱水ろ液(脱水機出口)のみで検出しており、その濃度は $0.46\mu\text{ g/L}$ であった。

フタル酸ジ-n-ブチルは脱水ろ液(脱水機出口)および濃縮槽の上澄水(上澄水の下水放流管入口)両地点で検出しており、その濃度はそれぞれ $0.68\mu\text{ g/L}$ 、 $0.07\mu\text{ g/L}$ であった。

水質と同様、SS 分が多いとフタル酸エステル類も多くなる傾向が認められた。

(3) 汚泥

沈澱池(沈澱池汚泥出口)、濃縮槽(濃縮槽汚泥)および脱水ケーキ(脱水機)のフタル酸エステル類および金属類の調査結果を表 24および図 6に示す。

沈澱池(沈澱池汚泥出口)、濃縮槽(濃縮槽汚泥)の汚泥試料は遠心分離を行い、上澄水と固形物に分け、沈澱池(沈澱池汚泥出口)では上澄水と固形物、濃縮槽(濃縮槽汚泥)では固形物中のフタル酸エステル類を分析した。また、脱水ケーキ(脱水機)は汚泥試料そのもののフタル酸エステル類を分析した。分析結果は乾燥重量あたりで濃度を算出した。{沈澱池(沈澱池汚泥出口)の遠心分離後の上澄水を除く}

フタル酸ジ-2-エチルヘキシルは調査 3 地点すべてで検出しており、沈澱池(沈澱池汚泥出口)で $8400\mu\text{ g/kg}$ 、濃縮槽(濃縮槽汚泥)で $7100\mu\text{ g/kg}$ 、脱水ケーキで $4700\mu\text{ g/kg}$ であった。

フタル酸ジ-n-ブチルも調査 3 地点すべてで検出しており、沈澱池(沈澱池汚泥出口)で $64\mu\text{ g/kg}$ 、濃縮槽(濃縮槽汚泥)で $50\mu\text{ g/kg}$ 、脱水ケーキで $38\mu\text{ g/kg}$ であった。

沈澱池(沈澱池汚泥出口)の遠心分離後の上澄水のフタル酸エステル類の結果は、フタル酸ジ-2-エチルヘキシルが定量下限値以下($0.05\mu\text{ g/L}$ 以下)であり、フタル酸ジ-n-ブチルが $0.07\mu\text{ g/L}$ と定量下限値付近での検出であった。同地点の遠心分離後の固形物中の濃度はフタル酸ジ-2-エチルヘキシルが $8400\mu\text{ g/kg}$ 、フタル酸ジ-n-ブチルが $64\mu\text{ g/kg}$ であり、フタル酸エステル類は固形物中に大部分が存在することがわかった。

金属類は調査 3 地点でほぼ同様の結果が得られた。アルミニウムが最も高く、次いで鉄が高い結果であった。

強熱減量は 3 地点でほぼ同様の結果が得られた。固形物の約 24~37%が有機物で構成されていることが考えられる。

(4) 浮上物質

浮上物質のフタル酸エステル類及び金属類の調査結果を表 24および図 6に示す。

浮上物質は遠心分離を行い、上澄水と固形物に分け、固形物中のフタル酸エステル類を分析した。分析結果は乾燥重量あたりで濃度を算出した。

フタル酸ジ-2-エチルヘキシルは $3800\mu\text{ g/kg}$ 、フタル酸ジ-n-ブチルは定量下限値以下($25\mu\text{ g/kg}$ 以下)であり、汚泥の分析結果と比べ若干低濃度傾向であった。一方、金属類はアルミニウムが最も高く、次いで鉄が高い結果であり、汚泥の分析結果とほぼ同じであった。

8.5.2 2 月度調査

(1) 水質

フタル酸類の浄水処理過程の挙動を表 23に示した着水井入口(返送水が流入しない時間帯)から返送水(着水井流入前)までの 4 地点で調査を実施した。その結果を表 25および図 7に示す。

フタル酸ジ-2-エチルヘキシルは 4 地点すべてで検出しており、その内返送水(着水井流入前)で $1.2\mu\text{ g/L}$ と最も高濃度検出された。

フタル酸ジ-n-ブチルは 4 地点中 3 地点で検出しており、検出割合は 75%であり、その濃度はろ過池(ろ過池流入部)で $0.09\mu\text{ g/L}$ 、送水{配水池入り口(緩速系と混じる前)}で $0.08\mu\text{ g/L}$ 、返送水(着水井流入前)で $0.07\mu\text{ g/L}$ であった。いずれも定量下限値付近での検出であった。

フタル酸ジ-2-エチルヘキシルとフタル酸ジ-n-ブチルの両物質が検出された地点は、着水井入口(返送水が流入しない時間帯)を除く 3 地点であった。

水質調査において SS 分が多いとフタル酸エステル類も多くなる傾向が認められ、フタル酸類は固形物中に吸着されると思われる。また、鍋屋上野浄水場の特徴としてフタル酸ジ-n-ブチルの検出率が高いことがあげられる。

(2) 排水

脱水ろ液(脱水機出口)および濃縮槽の上澄水(上澄水の下水放流管入口)のフタル酸エステル類の調査結果を表 25および図 7に示す。

フタル酸ジ-2-エチルヘキシルは脱水ろ液(脱水機出口)および濃縮槽の上澄水(上澄水の下水

放流管入口)両地点で検出しており、その濃度はそれぞれ $0.77\mu\text{ g/L}$ 、 $0.09\mu\text{ g/L}$ であった。

フタル酸ジ-n-ブチルも脱水ろ液(脱水機出口)および濃縮槽の上澄水(上澄水の下水放流管入口)両地点で検出しており、その濃度はそれぞれ $0.16\mu\text{ g/L}$ 、 $0.05\mu\text{ g/L}$ であった。

水質と同様、SS 分が多いとフタル酸エステル類も多くなる傾向が認められた。

(3) 汚泥

沈澱池(沈澱池汚泥出口)、濃縮槽(濃縮槽汚泥)および脱水ケーキ(脱水機)のフタル酸エステル類および金属類の調査結果を結果を表 25 および図 7 に示す。

沈澱池(沈澱池汚泥出口)、濃縮槽(濃縮槽汚泥)の汚泥試料は遠心分離を行い、上澄水と固形物に分け、固形物中のフタル酸エステル類を分析した。また、脱水ケーキ(脱水機)は汚泥試料そのもののフタル酸エステル類を分析した。分析結果は乾燥重量あたりで濃度を算出した。

フタル酸ジ-2-エチルヘキシルは調査 3 地点すべてで検出しており、沈澱池(沈澱池汚泥出口)で $3900\mu\text{ g/kg}$ 、濃縮槽(濃縮槽汚泥)で $6900\mu\text{ g/kg}$ 、脱水ケーキで $5200\mu\text{ g/kg}$ であった。

フタル酸ジ-n-ブチルも調査 3 地点すべてで検出しており、沈澱池(沈澱池汚泥出口)で $230\mu\text{ g/kg}$ 、濃縮槽(濃縮槽汚泥)で $140\mu\text{ g/kg}$ 、脱水ケーキで $100\mu\text{ g/kg}$ であった。

金属類は調査 3 地点でほぼ同様の結果が得られた。アルミニウムが最も高く、次いで鉄が高い結果であった。

強熱減量は 3 地点でほぼ同様の結果が得られた。固形物の約 28~35%が有機物で構成されていることが考えられる。

8.5.3 3 月度調査

(1) 水質

フタル酸類の浄水処理過程の挙動を表 23 に示した着水井入口(返送水が流入しない時間帯)から返送水(着水井流入前)までの 4 地点中で調査を実施した。その結果を表 26 および図 8 に示す。

フタル酸ジ-2-エチルヘキシルの検出は 4 地点中 2 地点で、検出割合は 50%であり、その濃度は送水(配水池入口{緩速系と混じる前})で $0.11\mu\text{ g/L}$ 、返送水(着水井流入前)で $1.2\mu\text{ g/L}$ であった。

フタル酸ジ-n-ブチルは 4 地点中 3 地点で検出しており、検出割合は 75%であり、その濃度はろ過池(ろ過池流入部)で $0.06\mu\text{ g/L}$ 、送水{配水池入り口(緩速系と混じる前)}で $0.13\mu\text{ g/L}$ 、返送水(着水井流入前)で $0.09\mu\text{ g/L}$ であった。

フタル酸ジ-2-エチルヘキシルとフタル酸ジ-n-ブチルの両物質が検出された地点は送水(配水池入口{緩速系と混じる前})と返送水(着水井流入前)の 2 地点であった。

水質調査において SS 分が多いとフタル酸エステル類も多くなる傾向が認められ、フタル酸類は固形物中に吸着されると思われる。また、鍋屋上野浄水場の特徴としてフタル酸ジ-n-ブチルの検出率が高いことがあげられる。

(2) 排水

脱水ろ液(脱水機出口)および濃縮槽の上澄水(上澄水の下水放流管入口)のフタル酸エステル

類の調査結果を表 26および図 8に示す。

フタル酸ジ-2-エチルヘキシルは脱水ろ液(脱水機出口)で検出しており、その濃度は $0.16\mu\text{ g/L}$ であった。

フタル酸ジ-n-ブチルは脱水ろ液(脱水機出口)および濃縮槽の上澄水(上澄水の下水放流管入口)両地点で検出しており、その濃度はそれぞれ $0.09\mu\text{ g/L}$ 、 $0.32\mu\text{ g/L}$ であった。

(3) 汚泥

沈澱池(沈澱池汚泥出口)、濃縮槽(濃縮槽汚泥)および脱水ケーキ(脱水機)のフタル酸エステル類および金属類の調査結果を表 26および図 8に示す。

沈澱池(沈澱池汚泥出口)、濃縮槽(濃縮槽汚泥)の汚泥試料は遠心分離を行い、上澄水と固形物に分け、固形物中のフタル酸エステル類を分析した。また、脱水ケーキ(脱水機)は汚泥試料そのもののフタル酸エステル類を分析した。分析結果は乾燥重量あたりで濃度を算出した。

フタル酸ジ-2-エチルヘキシルは調査 3 地点すべてで検出しており、沈澱池(沈澱池汚泥出口)で $4400\mu\text{ g/kg}$ 、濃縮槽(濃縮槽汚泥)で $4400\mu\text{ g/kg}$ 、脱水ケーキで $6800\mu\text{ g/kg}$ であった。

フタル酸ジ-n-ブチルも調査 3 地点すべてで検出しており、沈澱池(沈澱池汚泥出口)で $39\mu\text{ g/kg}$ 、濃縮槽(濃縮槽汚泥)で $33\mu\text{ g/kg}$ 、脱水ケーキで $120\mu\text{ g/kg}$ であった。

金属類は調査 3 地点でほぼ同様の結果が得られた。アルミニウムが最も高く、次いで鉄が高い結果であった。

強熱減量は 3 地点でほぼ同様の結果が得られた。固形物の約 26~33%が有機物で構成されていることが考えられる。

(4) 浮上物質

浮上物質のフタル酸エステル類および金属類の調査結果を表 26および図 8に示す。

浮上物質は遠心分離を行い、上澄水と固形物に分け、固形物中のフタル酸エステル類を分析した。分析結果は乾燥重量あたりで濃度を算出した。

フタル酸ジ-2-エチルヘキシルは $12000\mu\text{ g/kg}$ 、フタル酸ジ-n-ブチルは $410\mu\text{ g/kg}$ であり、汚泥の分析結果と比べ若干高濃度傾向であった。一方、金属類はアルミニウムが最も高く、次いで鉄が高い結果であり、汚泥の分析結果とほぼ同じであった。

9. G 事業体 R 浄水場
9.1 浄水場フロー図

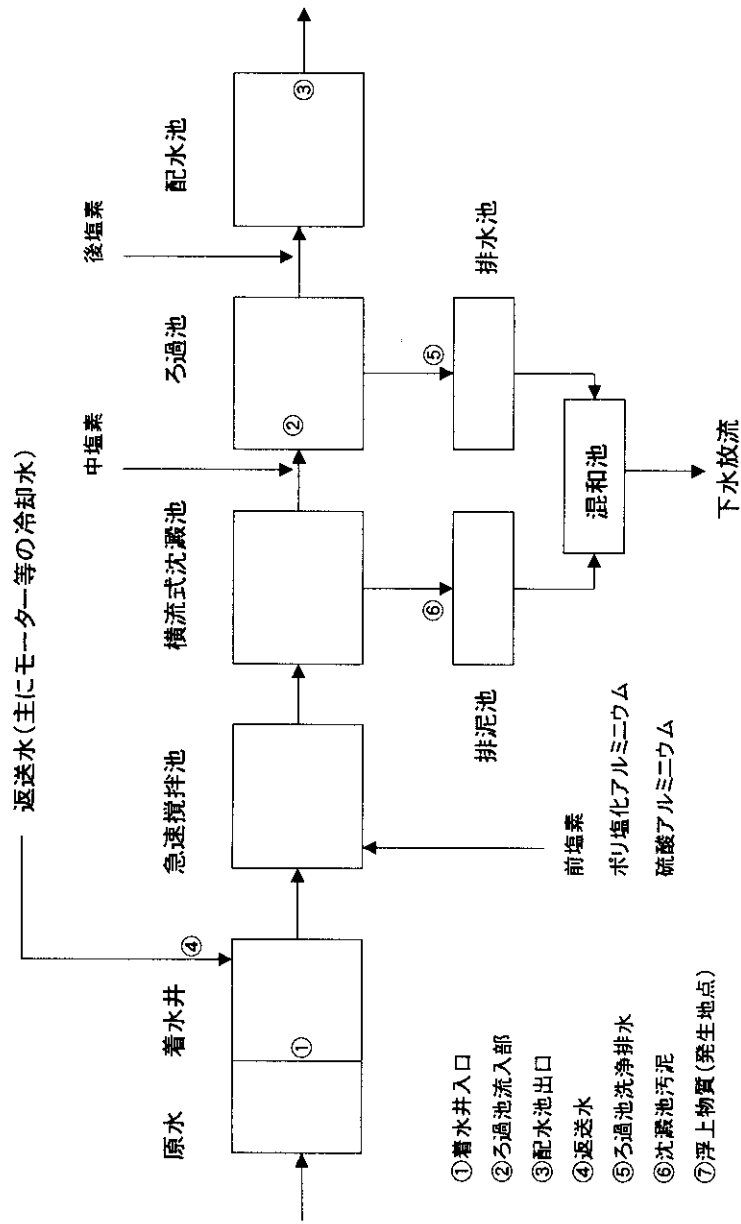


図 9 G 事業体 R 浄水場フロー図

9.2 一般項目測定結果

表 27 G 事業体 R 浄水場一般項目調査結果(1 月度)

事業体名	G	浄水場名	R
採取日	平成16年1月28日		

	前々日 (平成16年1月26日)	前日 (平成16年1月27日)	当日 (平成16年1月28日)
天候	曇り	晴れ	晴れ
降水量 (mm)	0	0	0
気温 (℃)	1.0	3.0	4.5

	着水井(接合井)	ろ過池	送水	返送水
水温 (℃)	4.0	4.0	5.0	6.0
pH値	7.7	7.4	7.3	7.3
色度 (度)	8	1	0	0
濁度 (度)	4.0	0.0	0.0	0.0
残留塩素 (mg/L)	—	0.3	0.5	0.5
KMnO ₄ 消費量 (mg/L)	4.3	2.7	2.5	2.5
塩素イオン (mg/L)	10.4	14.0	14.0	13.8
TOC (mg/L)	—	—	—	—

表 28 G 事業体 R 浄水場一般項目調査結果(2 月度)

事業体名	G	浄水場名	R
採取日	平成16年2月25日		

	前々日 (平成16年2月23日)	前日 (平成16年2月24日)	当日 (平成16年2月25日)	前々々日 (平成16年2月22日)
天候	曇り時々晴れ	晴れ	晴れ	雨
降水量 (mm)	0.5	0	0	36
気温 (°C)	7.0	4.7	9.0	13.1

(参考)

	着水井(接合井)	ろ過池	送水	返送水
水温 (°C)	8.1	8.0	9.0	9.9
pH値	7.9	7.1	7.1	7.2
色度 (度)	9	1	0	2
濁度 (度)	4.0	0.0	0.0	0.0
残留塩素 (mg/L)	0.0	0.2	0.5	0.5
KMnO ₄ 消費量 (mg/L)	5.5	3.0	2.5	3.2
塩素イオン (mg/L)	10.2	10.8	10.6	10.7
TOC (mg/L)	—	—	—	—

表 29 G 事業体 R 浄水場一般項目調査結果(3 月度)

事業体名	G	浄水場名	R
採取日	平成16年3月24日		

	前々日 (平成16年3月22日)	前日 (平成16年3月23日)	当日 (平成16年3月24日)
天候	雨	曇り	曇り
降水量 (mm)	34.5	0	0
気温 (℃)	4.9	9.1	9.3

	着水井(接合井)	ろ過池	送水	返送水
水温 (℃)	10.8	10.9	11.0	-
pH値	7.5	7.0	7.0	-
色度 (度)	16	0	0	-
濁度 (度)	10.0	0.0	0.0	-
残留塩素 (mg/L)	-	Tr	0.6	-
KMnO ₄ 消費量 (mg/L)	5.5	2.7	2.2	-
塩素イオン (mg/L)	10.0	10.2	10.4	-
TOC (mg/L)	-	-	-	-

9.3 調査地点及び調査日

表 30 G 事業体 R 浄水場 採水地点及び調査日

調査地点		測定箇所	調査月		
			1月度	2月度	3月度
水質	着水井 (接合井)	着水井(接合井)入口(返送水と混じる前あるいは、返送水が流入しない時間帯)	1月28日	2月25日	3月24日
	ろ過池	ろ過池流入部	1月28日	2月25日	3月24日
	送水	配水池出口	1月28日	2月25日	3月24日
	返送水	着水井流入前	1月28日	2月25日	中止
排水	ろ過池洗 浄排水	洗浄排水出口	1月28日	2月25日	3月24日
汚泥	沈澱池	沈澱池汚泥出口 (上澄水は捨てない状態で)	1月28日	2月25日	3月24日
	沈澱池	沈澱池汚泥出口 (上澄水は捨てた状態で)		2月25日	3月24日
浮上物質		浮上物質(スカム)発生地点	1月28日	2月25日	3月24日